



暮らし方、  
自分流

2

# 結婚を機に始めた 2世帯同居。あえて ”プライバシーフリー”で ふれあいを大切に。

—伊那町 鎌形さんのお宅



和室2間と縁側を取り込んで誕生した広いリビング・ダイニング。写真右に写る仏壇は、以前の位置のままレイアウトしました。

## 広

いフロリングのリビングダイニングで、親子5名が楽しむテイータイムのひとつ。2世帯同居の鎌形さんのお宅は、クリスタルカウンターの対面型キッチンが配されたこの場所が、ご家族やお客様との大切なコミュニケーションスペースです。

リフォームしたのは2年ほど前のこと。きっかけは息子の清さんのご結婚でした。新たな家族を迎えるために、大勢が集ま

れる空間をつくったほか、水まわりなど1階部分をリフォームされたのです。

「建てたのは平成元年だったけど、部屋数を優先したから細かく区切られていてね。ふすまを開ければつながるから、それでいいと思っただけ」(ご主人の清次郎さん)。

1階にはキッチンと2つの和室、そして応接間の計4室、それに水まわりが配られています。いちばん奥の4・5畳和室がご夫妻の寝室代わり。キッチンにつながるもう1つの和室が茶の間として使われていました。

キッチンは7畳ほどありますが、細めの形状や開口部の位置の関係から、ダイニングテーブルを室内の角に置いていました。そのためテーブルには2人しか座れず、キッチン内で全員が食事できません。全員で食事する際はお隣の和室を使用しますが、「畳だと立ち座りが足腰に負担になってねえ...」(奥様のキクエさん)と、不便も感じていました。

玄関脇の応接間は荷物が置かれて物置状態となっており、お客様がお見えになると和室に通しするしかありません。そのため、時にはご夫妻が寝室に閉じこもることも...。

そこで清さんのご結婚をいい

機会と捉え、こうした長年の悩みについて一挙解決をめざしたわけです。

## よいレイアウトでも 仏壇は動かさない

リフォームにあたっては家族会議を開き、どのようなプランにするかを話し合いました。

キッチンと居間をひとつにした広いリビング・ダイニングにすることは誰も異議ありません。しかし、その場所をどこにするかについては、家族からさまざまな意見が出ました。

Before



キッチンと、そこにつながる和室が以前のLDK代わり。手前の和室が茶の間として使われていた空間。奥が清次郎さんご夫妻の寝室として使用していました。





自然と笑顔になる。コミュニケーションが深まる。

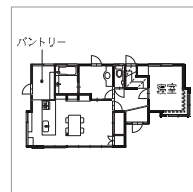
1. 大勢での作業もスムーズ。リビング側に向けた対面型システムキッチンなので、作業中でもコミュニケーションがとれます。
2. キッチンの奥には広いパントリー(食品庫)をしっかりと確保。豊富な収納力で、キッチン側を雑然とさせることもありません。
3. 奥行のあるカウンターは、調理や配膳にとっても便利。半透明のパステルカラーがインテリアのように室内になじんでいます。



鎌形家に嫁いだ直美さん。以前からよく行き来していたため、結婚後すぐの同居も気遣いなくスムーズに生活できたとか。2年経ち、直美ちゃんの誕生もあって、すっかり1つの家族となりました。



After



鎌形さん宅は北側にキッチンと水まわり、南側に和室が2室レイアウトされています。当初はこれまでのキッチンと6畳和室をつなげた、南北に長いリビングプランが出されました。これを生かす既存のキッチンスペースを生かす、南側の和室1室をそのままご夫妻の寝室として残します。しかし問題点が1つあり、仏壇を移動させなくてはならないのです。

これにはご両親から反対意見が出されました。

「どんなにいい間取りになっても、仏壇を家の隅に移すなんて考えられないこと。自分たちだけでなく、みんなが気持ちよく暮らせるのがいちばん」(清次郎さん)

そこで浮上したのが、和室2間をつなげるLDKプラン。これなら南側からのたっぷりの光がリビングに射し込みますし、仏壇の位置はそのまま新しい空間をつくれます。

懸念はご夫妻の寝室に使用していた和室がなくなってしまうことですが、倉庫になっていた応接間をお二人の新たな寝室として活用することとしました。

リビングとは玄関ホールをはさんで独立しているので、プライバシーも守れます。

こうして、充実した広いリビング

ンクや水まわりを2世帯の共用スペースとして、1階に清治郎さん、キクエさんの親世帯、2階を清さん、直美さんの子世帯スペースとした2世帯住宅にすることにしました。

そして40日ほどかかっていたリフォームも無事終わり、新たに直美さんも加わって4人家族としての2世帯生活がスタートしたのです。

お子さんの誕生で、さらに深まる絆

新しいリビングダイニングに配されたシステムキッチンは、II型にレイアウトされています。壁側にはカップボードや調理家電を配したシステム収納を配置。シンクやコンロはリビングに對面した形で配置し、リビングにいる家族やお客様側を向いて作業できるようにしました。

キッチンの傍には3畳近いパントリー(食品庫)も設けたため、ものがダイニングに溢れず常にすっきり。

システムキッチンの選定は、新しい家族になる直美さんもシヨールーム見学に参加し、半透明のクリスタルカラーが美しいモデルを選びました。II型のキッチンの間隔が十分にとられているので、ふたり以上の方が同時に作業してもぶつかること





食事に、くつろぎに。  
広いリビングに  
自然と家族が集まってきます。



ちょっとした仕事も自  
室でなく、つついり  
ビングで作業。



「欲じゃないけど、孫  
は本当に可愛くて」と  
ご家族を見守るお母様。

ない、機能的な動線です。  
以前キッチンのあった北側にはバスルームと洗面所を移動し、水まわりをまとめました。  
システムバスルームは1・5坪サイズ、洗面所も4畳以上のスペースと、共に以前よりスペースを広げました。これは家族が増えてもみんなが快適に使えるようにとの配慮ですが、加えて、お子さんが誕生したら親子で入浴したり、洗面所で行うおむつ洗いなどの作業負担を少しでも軽減するという、将来のことを考えてのプランです。  
そして待望のお子さん、直穂ちゃんの誕生。  
ハッピーな出来事によって、家族の絆がさらに強まりました。慣れない子育てをご両親がサポート

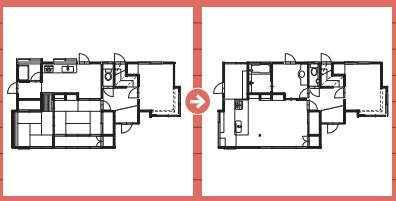


トイレはタンクレスタイプに交換、カウンター付き手洗器も新設。

ートし、直美さんの負担を軽減しています。今や歩けるようになってやんちゃ盛り直穂ちゃん、リビングの一面にキッズコーナーをもらってご満悦。  
「フローリングには床暖房システムも付いていますから、裸足でも大丈夫。カーペットなどを敷かず、床に直接触れる感触を記憶してもらいたい(直美さん)」  
「また勤めに出るようになりますが、昼間は両親に子供の面倒を見てもらえるので安心して外出できます(直美さん)」  
生活空間を完全に分離する2世帯住宅もありますが、あえて「プライバシーフリー」にした空間での毎日のふれあいが、何よりかけがえのない時間のようです。

Reform Data

|          |         |
|----------|---------|
| リフォーム費総額 | 約1144万円 |
| 内装・木工事   | 292万円   |
| 商品+設置費   | 640万円   |
| 床暖房工事    | 140万円   |
| その他      | 72万円    |
| 工期       | 約40日    |



Reform Point

- 1 親子2世帯が水入らずで楽しく暮らせる空間に。
- 2 細かく分けられていた部屋を整理して広いリビングを実現。
- 3 大勢の家族誰もが毎日気持ちよく使えるよう水まわりスペースも広く。



広いリビングはキッズコーナーに早変わり、床暖房だから裸足で遊んでも大丈夫。笑顔の絶えない空間です。



浴室には1.5坪のシステムバスルームを採用しました。バスタブも洗い場も広くなっており、親子で入浴してもゆったり。



毎日使う場所だけに、洗面空間も広いスペースに。豊富な収納と広いボウルを備えた洗面化粧台で機能性・快適性を高めています。